

イスラエルのレバノン空爆、最大規模 死者550人以上に

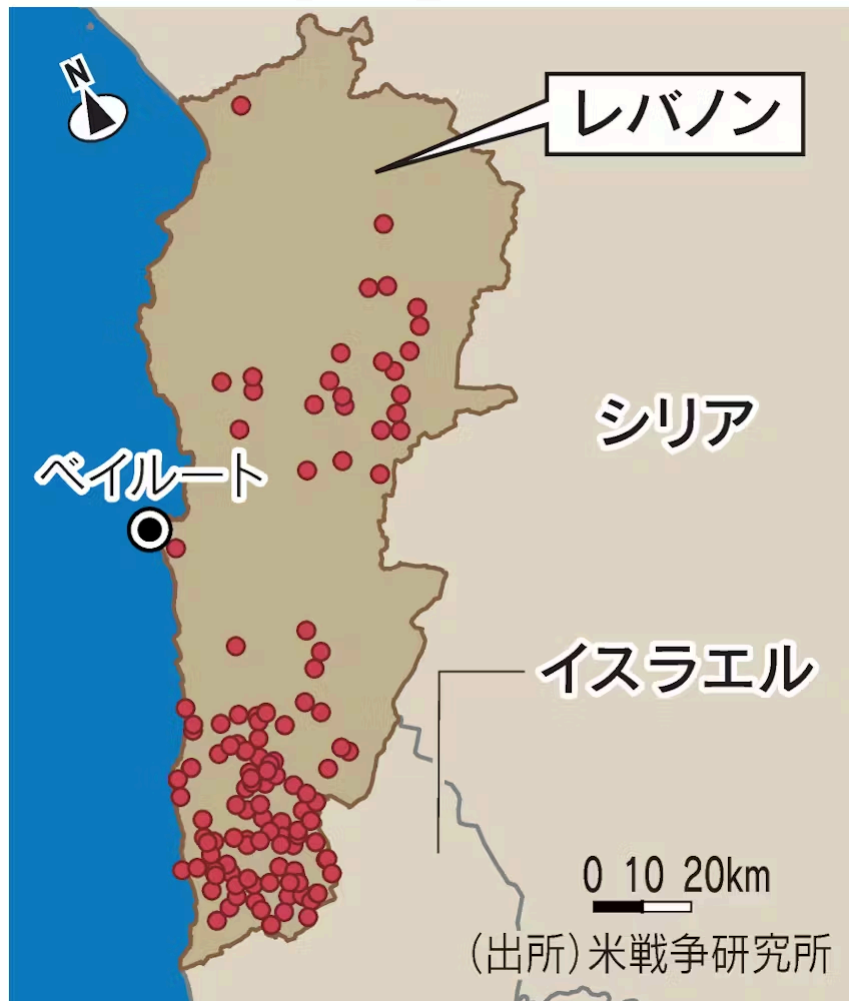
2024/9/24 3:07 (2024/9/24 20:48更新) | 日本経済新聞 電子版

【ドバイ=福富隼太郎】イスラエルがレバノンでイスラム教シーア派民兵組織ヒズボラを狙った大規模な攻撃に踏み切り、23日以降の死者数は550人以上に達した。ネタニヤフ首相にとって国家並みの軍事力を持つヒズボラとの全面衝突に発展しかねない危険な「賭け」となる。

イスラエル軍は23日、レバノン各地で1600カ所を標的にした大規模な空爆を実施し、24日も同国南部への空爆を続けた。レバノン保健当局によると、23日以降の死者数は558人、負傷者は1800人以上に達した。

「我々を傷つけようとする者を、我々はさらに傷つける。脅威を待つのではなくそれを予期する」。ネタニヤフ氏は23日のビデオ声明でこう強調し、ヒズボラへの空爆強化を正当化した。

イスラエル軍が空爆した地点



中東メディアによるとイスラエルのガラント国防相は「レバノン全土でヒズボラの拠点に対する攻撃を拡大している」と語った。イスラエル軍幹部は「攻撃の次の段階を準備している」と述べた。

死傷者には女性や子どもなどが含まれているという。ロイター通信によると、レバノン政府高官は23日の空爆について「(1975～90年まで続いた)内戦の終結以来、1日としては最も多くの死者が出た」と語った。

イスラエルが狙うのは、ヒズボラによるイスラエルへの攻撃能力の排除だ。2023年10月にパレスチナ自治区ガザでイスラエルとイスラム組織ハマスの衝突が始まり、ヒズボラもハマスに呼応してイスラエルをロケット弾などで攻撃してきた。

レバノン国境に近いイスラエル北部の一部の住民は、イスラエルとヒズボラの交戦の影響で避難を余儀なくされている。イスラエル政府は今月半ば、こうした住民の安全な帰還をガザでの戦闘の目標の一つと定めた。

イスラエル軍報道官は23日の空爆に先立ち、映像を使ってヒズボラが巡航ミサイルを建物内に隠し持っていたなどと指摘。イスラエルに向けて発射する直前に破壊したと主張し、ヒズ

ボラの危険性を強調した。

ヒズボラは大きな軍事力を持つ	
概要	レバノン南部を中心に影響力を持つ組織。指導者はナスララ師。後ろ盾はイラン
設立の経緯	異なる民族・宗教間の対立から1975年に始まったレバノン内戦でイスラエルに抵抗するために誕生
主な活動	レバノン議会に議席を持ち、閣僚も輩出。学校や病院も運営
軍事力(概数)	兵力3万人(予備役2万人)、無誘導ロケット弾10万~16万発、弾道ミサイル2万~4万発

(出所) 米戦略国際問題研究所 (CSIS) など

ヒズボラも23、24両日にイスラエルに反撃した。イスラエルメディアによると23日には、レバノンとの国境から離れたヨルダン川西岸地区の入植地でも攻撃を知らせるサイレンが鳴った。ヒズボラが長距離ロケット弾を発射したとみられる。

22日にはイスラエル軍によるヒズボラへの攻撃が強まっていることを受けて、ヒズボラ幹部が「際限のない新たな段階の戦闘に入った」と警告していた。イスラエルとヒズボラ双方の攻撃の応酬は、エスカレートの一途をたどっている。

イスラエルがヒズボラへの攻撃を強めている背景には、ガザでの人質奪還が進まず国内でネタニヤフ氏への批判が強まっていることがあるとされる。北部でヒズボラの脅威を排除する姿勢を示すことで自身の求心力を高める狙いがある。

ヒズボラへの強硬姿勢は、全面衝突に陥るリスクと背中合わせだ。レバノン内戦中にイスラエルに対抗する組織としてイランの支援を受けて誕生したヒズボラは非国家としては世界有数の軍事力を持ち、ハマスよりも格段に強大だ。

兵力は5万人程度と推定され、米戦略国際問題研究所 (CSIS) の分析によればミサイルやロケットなど12万~20万発を所有している。

ヒズボラとイスラエルは2006年にも大規模に衝突し、レバノン側で1000人以上の死者を出した。CSISはヒズボラが現在、精密誘導ミサイルを持っているとし「06年にはなかった脅威

だ」と指摘した。本格的に衝突すればイスラエルとヒズボラ双方が受ける損害は大きい。

イスラエルとハマスの衝突では米国やエジプト、カタールなどが仲介に乗り出したが、交渉は難航している。ロイターによると、米 국무省高官はレバノンでの衝突拡大を防ぐため、同盟国などと具体案を協議する考えを示した。ただ、実際にどのようなかたちで仲介を進められるかは不透明だ。

22日にはイラクの親イラン武装勢力もイスラエルが占領するゴラン高原を無人機で攻撃したと発表した。ヒズボラと連帯する周辺勢力の介入拡大を招くおそれもある。

今のところヒズボラ側からのイスラエルへの攻撃による被害は限定的だ。ただ、ネタニヤフ政権内にはレバノンの首都ベイルートへの空爆強化やレバノンへの地上侵攻を求める強硬論もあるとされる。

ヒズボラが反発を強めて大規模な攻撃を仕掛け、イスラエルにより大きな被害を与える可能性もある。双方の衝突がコントロール不能となればヒズボラの後ろ盾であるイランも巻き込み、中東情勢が不安定さを増す危険性が高まる。

【関連記事】

- ・ [ヒズボラ攻撃に懸念表明 米国防長官がイスラエルに](#)
- ・ [イスラエルがガザ北部の「包囲」検討 現地メディア報道](#)
- ・ [イラン「代理勢力」ヒズボラとは 軍事力はハマス以上](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.